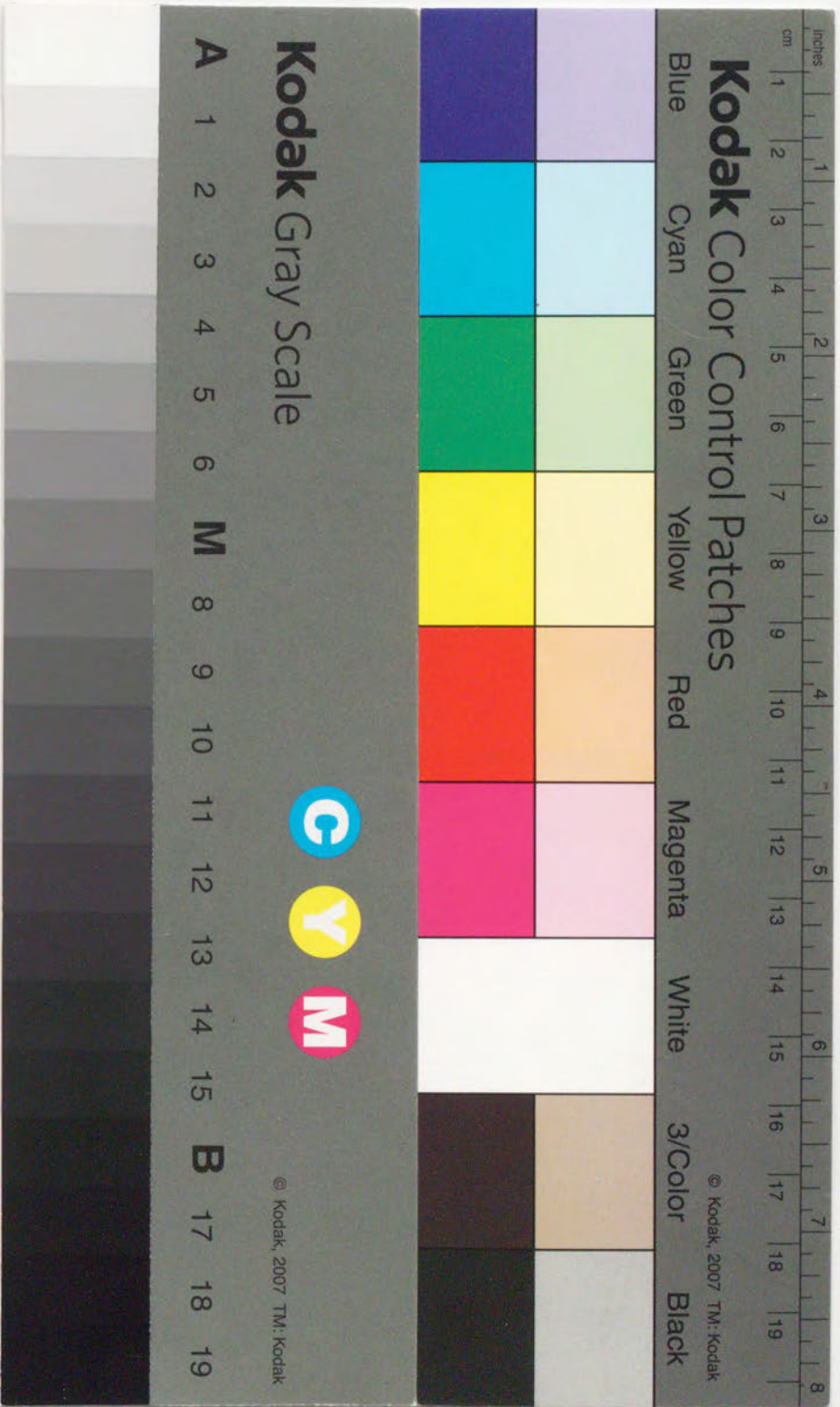




教訓は加算紙の叙



大徳ふきき書を引て曰く世國の以て軍するふしは
唯善なる室より室人善なる所の忠孝及び美仁
勇其善小在る不善なる則ち不忠不孝不仁不勇
若し善人あらずんば善なる必れをむくこと
人を教ふる法必先善なりむくたあり
一善出づる人を教え導く徳あり
字書を著して善なるを教ふる
すれ一端あるん人夫は善なる其徳を教ふる可也





教訓御伽草紙初編卷之上

東都

松亭主人輯録



世に人間初め母の胎内より産まゆるは僅かに
血ありて五七情固来りておきやくとあり
の。我を心より更々飲食の念もあらず。人
あまざる。飲め。終る。心。有。て。无
慾。我。多。る。佛。と。い。ひ。聖。と。い。ひ。ま。ん。そ。の。蠢。く。虫。の



どくろりの小乳房で含ませ。暑さ寒さも程よく
おどろかす。あぐと今抱く育て揚る。お親の
丹誠今きりひふあをば。お親の可愛き一心で
り。その身の疲も厭いぞ。或ひ尿尿小襟きり
で。洗ひ濯ぎて活——ともあひいぞ。殊小兒を湯
有服く洗ひ不豆と医書ゆもあるぞ。その堅実
ぎまひ。やもまひ風寒暑湿ゆも犯さき易く殊小
疣瘡麻疹。小兒一代の大厄。その病小罹るさ
は。

お親の眼も寐ぞ飲食も怠る。須臾も心
慰め女抱し。更小神佛成す。面成情只常順
度小半愈せん。成頼ふの外他事。その苦
辛のたゞでや。斯くあの大厄もあまひ。漸七八歳
ありふたき物讀と始り。武家の武藝成熟し。農
人の耕作の道成。教え職人をまくの業成習し。
商人は讀書算用成始り。其の要交易の道成
学ばしめて。あつく世にふる便術を覚え。一生安楽ふ

孝の正意を思ふ。是は父母の大恩なり。さういふ親は孝あり。そのハ君へも忠義あり。古き書あり。人々努く忠孝の道。忘るゝなれ。よれ。児童小仁義。禮智忠信。孝悌と知。一めん為。さう世ふ高。う。活柄とふ録を

母親の孝あり。一時親の心小背き。母親怒りて。その此。お振まけ。當下の此。父泣け。近頃の人多集。ひ。お。ね。親は泣や。元方

母の孝あり。たのこ。小痛む。う。いと慰めけ。その子。孝。否。痛む。父。泣。わ。わ。先。年。些。少。こ。母。お。お。方。あり。一。お。その時。痛。さ。然。今。お。さ。更。小。痛。む。全。く。母。の。元。て。力。の。書。へ。お。と。お。う。と。い。て。お。さ。く。泣。け。り。と。お。ん

一人一首。ゆ。その。名。あり。児童。も。よく。覚え。方。二。條。院。の。漢。波。を。源。三。佐。新。政。の。女。中。う。孝。心。深。人。あり。世。上。の。人。々。その。身。の。生。ま。る。目。然。親。へ。お。お。和。漢。と。い。ふ

俗の側とある。あの僕彼を母親辭せたり。彼辰の
 日あり殊更ふあゝ多ふ。是て生人と一あふその幼少
 のむであてりあけんとひて。一日物我食を懷旧淚と
 ひて旧きと我懷せり。淚をむせびうとてや
 世の情人の意あふべとてあゝ我をうる。天下國
 家の君と一ふ。只仁城の川と流むとのり。我を六味き
 のも理に於てニツキ。仁心と常小志も移る家富榮へ
 子孫その儘ふより。繫留するて歎ぐむあれたのあり。

愛ふ北條泰時々、鎌倉の執権小〜時政の孫多。外
 ろみ常と守り。内より義親の心海く。人と恵を成と懐
 まむと。父母の孩児成あひ人が如し。一時凶年つまき
 関東の民飢小苦しむと笑。米金成多く物〜あき成
 救ひ授その上ゆも。米金成而姓小貸与え。米年出米
 秋成りゆ返流ま〜と券状と物させける。あうりふ
 その翌年も季候悪〜〜穀登らば。諸人々
 歎きく。肩と頰め。凶年の借用と返流ま〜時あり

ぬれど。まづ、凶年ありて返るべき御計多。如くせん
と案じ給ひ。教奉行られ土地と云く。他國へやゆんと
辨義二函くあるまじう。泰時自らあの國へ下向あり
と云く。百姓等いまだく返る。いづるも知らあうんと
安き心もあらず。泰時よりあらず。希く田畑の景
勢と巡見し。さく百姓等成嘆びあり。打續まての凶年
汝等さうと。教奉行し。ゆ。それとも吾等の所乃領主
あまば汝等い吾兒あふ。争で兒の秘義成除所小

久々 吾獨樂む。き。本年莫大の兼金成貸えられど。
返るべき暇あるもどけ。いづ。あのうへ返濟不及。則
その為の券状成焚捨るまじう。かの券状數百通成
さうか。一。諸人のさう前より焚捨けむ。老若男如る
いふ及。いふ。いふ。十案斗りの稚き見ま。その仁
徳小感ト。涙成流。一。涙滴して。教の秘義一
あ。然ま。斯連年の凶兆多。是より米穀乏しく。と
價もさく。高直なれば。困窮いふ。甚し。と聞く。



倉廩を因きて救ふんとせしむる。近事収納少
き小本年も莫大の施し。や困の穀物も乏し
けしむ。重役の者さるる。錢論といひけし。泰時工夫
あり。きふ今在る処の米穀。然渠等小賣とて。西國
四國の米より買入る。と評議。擧。領内の穀屋。然
ち集め。ちのく入れとて。あり。け。や。吾を
落れ。あり。て。一廩の米を賣る。け。一時。ふ。ふ。んと。坐
腹と認め。堅く封。と。入れ。と。あり。け。か。て。因。れ。の

日。小。至。ま。泰時。自ら。上座。に。在。り。勝。を。汲。人。形。と。び。く
か。の。入。れ。張。振。き。け。り。ふ。各。々。高。坐。を。り。中。小。如。け。り
う。け。ん。只。一。枚。格。外。小。下。座。を。入。れ。り。汲。人。等。う。ち
笑。ひ。て。腹。へ。除。る。張。泰時。あ。ま。と。ふ。小。把。あ。け。は。れ。小
落。ま。へ。と。い。ふ。汲。人。等。は。張。抄。へ。ん。を。入。れ。ハ。その。内。の
う。ち。之。落。ま。と。世。上。の。通。例。を。り。然。る。小。格。外。を。安。れ。へ
落。し。め。ん。と。い。ふ。如何。や。と。い。ひ。け。し。泰時。莞。示。と。笑。ひ
其。方。等。の。い。ふ。処。大。小。理。の。背。け。や。そ。の。通。例。の。あり

今山幸小〜百姓塗炭の苦〜。吏と救ん爲小賣
 与方米穀と争う爲小賣人や。渠も亦小賣と云
 り。利を加えくわく。亦小賣人。下亦小賣と云。自
 々下亦ある。さう云ふ人救ふの道理不悦い
 と云。拾外下亦ある。札入。者人。悉く賣さされけ
 果〜。相場大に弛〜。賊死の者もく取續き〜と
 さん北条家九代の間。抗権の賊も居。海内小威を震ひ
 榮耀小修り〜。偏小泰時。仁徳の政もあつと云

▲その前稻毛入道重成を。頼家卿の四子一幡君乃外
 戚と云。當中の出立〜。元来強欲の人。下亦
 隙も心の心。是も山幸小當り。百姓の苦〜を一言
 たり。亦小賣。金法と云。飽事あり。一人その
 頃稻毛が願内と通う。米穀死より三倍の亦
 され。その人怪〜。土地の者小同小。當願主のいひ
 こと。米穀の亦。方より沙汰する。下亦小
 等〜。其故。此亦願主の問ひ穀と。市中〜

おまう、おまう。あの掛ひふ添うへ。下落する。と
密に張る。その人仇弾と。主退ける。ある小我程も
北條が落し亡き。刻々一幡君も渠等と俱に世を
去る。本心ふある。と。則不仁の報ひあり。実小天の昭く
る。一毫の非も覆ふ。なう。ば
▲凡君臣父子夫婦兄弟朋友のう。和さ。さ。理ふ。く
是と。倫といふ。ある。君の禮あり。臣の忠あり。父の
孝あり。子の孝あり。兄弟の愛敬あり。朋友の信あり。ま。夫婦

の愛敬の情。ゆ。格別ある。況て兄弟ハ他人の物
と。法ゆ。ゆ。如く。良も。ま。ま。妻子の妨られ。兄
弟の愛敬と。ま。の。あり。人として。情。あり。ふ
ら。凡民日向國米良といふ。山中。常。田畑の業
多。あ。の。山。漆。の木。と。生。る。ふ。の。新。の。山。民。皆
彼漆を。漆。の。治業と。ま。ふ。安。な。り。者。例。の
ど。漆。掻。ふ。あ。谷。と。經。巡。る。派。業。を。勉。め。ふ
過。つ。て。漆。を。谷。に。落。す。あ。る。あ。の。男。元。來。水。練。ふ

連しこれ衣を脱ぎ谷川の水で濯りて水底へ
あぐて居る。その水底一面は漆あり。是は木の奥の
黁しき漆の樹皮を剥ぎて。巖石谷川に隔りて人の往
来へき所あり。ねば常に搔人多し。然るに樹の根は深く
盛みしき繁葉しき。或は炎暑の落し葉を洪水に
押さされたり。紐古より木の節に漏りて多し。安んずる門
を以て大の形也。又より密なる隙にありて多し。の
漆を把りて同屋へ流し俄に大分の滑つたぬ迫る。乃

者もいそいで筒柄の漆をぬきやと怪しむ。因に漆を
けるが別しき。芽の十を漆とくるとりみ。不審は其の何れ
を別の仔細をこのをききけり。一時十を密なる隙に
を以て少しの多しに居る。隙へ入りて数多の漆を
把揚るを以て。叔を以て点散る。漆を密なる隙に
入て居る。その漆数千とあり。或は十を漆とくるとり
とを以て把りて。兄を以て。乃て我を以て。安んずる
多。吾一人得つんと思ひし。渠を以て。乃て我を以て。

あね。行く工夫と懲り細工人と情と大さある龍頭の。
さも生る如く方と括へ。例の逢寒水の巖のろへ
括しあきけま。烈しき流の龍頭の。わつくと動めき紅
の舌と吐方存在ま。多く作物とるをを斯く芽も是
小怖も重く来るま。と。獨笑しく在けるが果しく十念清
例のどく。例へ入りくろる小。巖の間より金色の光りを輝し。
紅の舌と吐て。只一口吞んとす。景勢小。乳も現れぬ小
劇也。後き周章と。逃げ取り。き後ハ曾て性也。安んづる

仕まう。うと獨笑しく。あ。例へ入り漆と把んとす。小。
あ。から。いきなりま。う。好。ど。うん。せ。ち。ま。う。う。う。
かの龍の威勢。宛然生る。如く。一身一縮み。ぬく怖し。ま
喻へん。さ。ま。け。ま。ば。い。き。ぎ。逃。揚。り。て。熟。と。わ。り。小。吾。泥。り
おん。さ。う。細。工。の。あ。る。と。ま。の。ま。あ。ま。ふ。う。と。自。ら。心。張
あ。ま。う。く。ま。う。水。底。へ。入。り。龍。の。と。る。ま。ば。後。怖。し。き。怖。小
百。倍。し。く。二。眼。と。る。ま。き。や。う。る。け。ま。ば。ま。う。逃。揚。り。熟。す。と。
ひ。ま。ん。ど。ど。あ。ま。あ。ま。う。あ。ま。う。う。う。と。る。
月。と。三。の。夜。あ。及。べ。ど。あ。ま。う。怖。し。く。漆。と。把。ま。き。や。う。う。
あ。小。於。く。亦。四。入。や。う。か。う。瑪。瑙。と。あ。う。ど。れ。漆。と。吾。の

把む人の中も把めぬ本を有り。まゝ人どくろひ彼能
死と切放ちて。杖く人と俱ふ把んふ如くと云ひ置あ。
銀ある朋友五七人ふ。おひくこのより紙捲けと云ふ。その中ふ
も若く血氣多族を。安んずるが。腫病然笑ひ言ひ。おろ
あ。溺へ来。吾を能死と切放ちて。水中へ潜り
入るふ。何時より能死と親や入けん。その威勢凄どそ
傍へも寄つけぬ。人々も族き用毒と逃る。その後わ
惟わぬ。あ。溺へ入んと云ふのは。あふあ。溺ふ

常ふ常むひささ。折く毒氣ふせられ病のも在
と云ふ。然るもあ。能死と親の入りけり。と云ひける。元
より細く。方りのふ。親の入るまは。あ。と云ふ。佛親ふ
の貪睡痴の三毒で大蛇ふ。と云ふ。まゝ安んずるが
貪欲心する。あ。能死と親の入りけり。と云ふ。元
より漆と見ゆ。此方より。あ。と云ふ。兄弟
俱くふ把て富で受るふ。已に獲得つんと。云ひ置
心の鬼と蛇とありつる。

岡ふらふ遠々安堵ふ似れども然ふあゝむ。武蔵の
 岡隅田川の川と宗。浄土淵どろろ。昔ある寺
 ふわうー。撞。あつ川ふ沈え如ふふくも揚らむ。一時
 毛綱と撞の就ふ結付て引揚ふ。さうの毛綱
 弗と断離う。おふがく人かふ及ばざる。眠り
 捨てる。うらの順ふや是と見んとく。水底へ入り
 人あり。おふ小彼毛綱は方へ教れ。その怖く。喻
 えらむ。撞の袖は自ら其の袖は異なり。と。

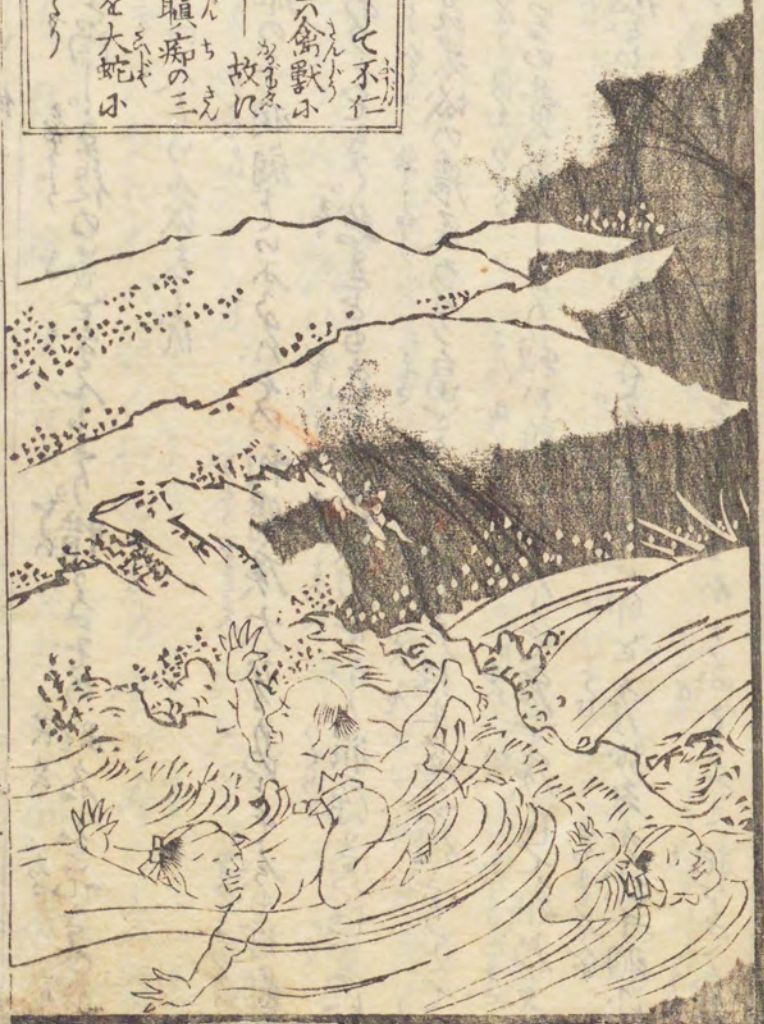
今亦其測の主と公修ふ

ちりー式諸侯の秘藏せられけり。硯箱の失うるを。隈
 り穿鑿せられけり。小性汲何某の狭箱の中より
 出たり。かの小性汲ふども知らざるゆゑ。吾狭箱より
 出たり。云々。分るがごとく。既小切腹と定まりけるを。汲小性
 の常小目然りけり。仕ひさる下僕。自ら解へ曰。汲硯箱の
 吾等盗とせり。されど。ある。汲ふべき所ありき。主人の
 狭箱小入なり。その罪小よりて。主人の切腹と兼り。

あゝ慚愧後悔ありぬ。庶幾の吾と罪とを人々を待てぬ
とのひけし。官人因て斯本人明白あり。争て小姓を
臈まきとてとる。則下僕と死刑をせしむ。
斯て後。殿の諸具ある。数回あり。おと成穿鑿
ある。小姓の於屋よりある。這回も云。振きく切腹
お振る。暫く於屋に押さく在ける。おと成向て勢
む。次坊主の在ける。一時小姓の於屋にあり。その下へ
おや。押入し。おと成。おの小姓。汲人。お此。その

う。成。若く。淫美と。おひける。官人等。主合。て。成。揚て。え
と。殿の。刀袋。あり。扱。と。と。次坊主。成。捕へ。弘明
する。小。逸く。白状。小。及び。去年。硬箱。の。失。う。も。吾。所。お
あり。お。迎。お。れ。ば。ま。づ。小。姓。於。屋。へ。源。一。お。き。折。て。え。合。さ
持。お。り。明。白。小。言。一。け。し。る。が。の。小。姓。ハ。寃。と。訴。ま。さ。と。
坊。主。ハ。死。刑。小。お。し。る。ま。づ。下。僕。賊。一。身。と。一。身。の。
命。小。換。り。し。る。は。成。小。章。と。下。下。添。と。流。し。く。その。忠。美
と。感。し。ける。と。や。昔。ハ。か。る。下。賤。の。者。也。命。成。押。さ

人として不仁
 ちと禽獸小
 等一故に
 貪瞋痴の三
 毒を大蛇小
 喻する



白蛇

四

忠と濁し。ま後の義とせんより。惜みその姓名を記さば。
何方の人ともしあはれ

▲雞の子羽創といふ。その利得度大なるものとて。今も所部
少ありとぞ。然しどもれを生懸け殺さず。罪深きこと。其に
其の岩城の農民ある。田をうみ肥。大根牛蒡をたうとて。
その名の貴哉。于より我の雞を畑にと庭を廣く。雞を多
を飼ふ。卵と産む。其をその雞と卵と産む。勿れ千羽小
充て。美雞の日。小卵を産む。いとふ。とて。把つて賣

排ひ。美雞ふり。卵も産む。あは殺し。食する。小
大根牛蒡の味。遠く遠く。只貴の味。を以て
家も富男女の子供四五人持。豊に世を送りける。ガ
その子。二十なり。十七八。或は十二三。小あり。悉く
死果す。終に病ひつ。漸く小なり。既に死さんと
する。日。示り。一向。食事。せ。父。母。を。歌。て
食事。成。初。む。れ。ば。病人。死。より。その食。と。夢。の。よ。し。時
教。一粒。拾ひ。合。ひ。宛。然。雞。の。卵。と。養。ふ

何れ

二十

どー。その子信一人毎ふる斯のどくーく死失う。
を数年難と殺し方報ひる王を暗り。夫婦
髪と落し回國小あうとるん

和歌の徳ありて今まうふ及ぶ元来皇國の
云ふあれ。然のむづーきふあうむ昔の賊女
山児のさひ。食歌みけや。今その體まゐぐふる。
法式定まりんより。師ありて泳得るやうふるぬ。
往昔より歌と泳て命を佐う。罪と免るる方活柄

多し。お小沢庵和尚は高き禪僧あり。悟及んさう
ゆものも。歌もよく泳けりてあん。一時一人の盗人あり。
密小和尚が弟替の衣類と。盗るるまゐんとて。
澤庵和尚目まぐえ知る。とまくと喰ふ。一肯の
歌あうりてやうぬ

かれせ小僧と成まり。今侯あり。今侯あり。
後の世ふとてとる盗人小者。盗人うち吟とて
歌の道を暗りやしけん。彼弟をわたりて活柄りけん

とまじけし中へく食さるべとあり心より。四邊を見れば幸
人も居ぞ。もつ雞とさへ傍より樽を伏せく。米成搗
終ら持てとんととみ居ふ。ちや益飯ありと吸ふは
そのまゝ。その所の勝多へ入り版を食けふ當下隣長屋の
家根と修みく居る家根背遙ふとみ居る。彼奴
少の雞と盗み。枵の中伏おけく今益食み居る。
その間ふかの鶏成盗まゆく鼻ありとみ居る。客の
と人あり。枵とわけく雞とゆ。あり報く懐ふ居る。

とまじけし中へく食さるべとあり心より。四邊を見れば幸
人も居ぞ。もつ雞とさへ傍より樽を伏せく。米成搗
終ら持てとんととみ居ふ。ちや益飯ありと吸ふは
そのまゝ。その所の勝多へ入り版を食けふ當下隣長屋の
家根と修みく居る家根背遙ふとみ居る。彼奴
少の雞と盗み。枵の中伏おけく今益食み居る。
その間ふかの鶏成盗まゆく鼻ありとみ居る。客の
と人あり。枵とわけく雞とゆ。あり報く懐ふ居る。

山王の方小向ひく。一心不亂のやうに下りけり。波を根
背ハ目と目とをえりてさへうち後ひ。と奥のりるを言ひ。その
れは又之。かの難と調理。酒勝々奥トけり。斯の
米搗ハ心より。尚神罰と云ふとける也。織小狂れ。く
さぬぐの襦袢を罵。一向小難の工の口走る。妻はさう小
合もやうに。さう中ハ加持祈禱を物まねと後も
き。目々小難のねひまゐる。屋根背も迎意のゆゑに
あゝお。さう得のさぬのり。難ハ吾々を把さる。神

罰さうと云ふが。あゝ心々狂れをさう。吾々狂れを
とて具小張りさう。速心小納まゐる。不懷す。と
頓て二人の屋根背米搗男の方へゆゑ。如此との沢
全くその難ハ神のさう返。ゆゑ小あゝ。さうさう
法めく不懷あねと示しけり。と。狂ハさう。と。淫方
さう。二人を淨らんと。さう折う。米搗の妻ハ在のふ。又
庵丁と把。家根背が後より力小任。と切つ。全くさ
其の狂れ。さう。は。さう。野あゝ在。さう。恨。さう。と

又一人小切はる。二人を不意と打ち。血を泥まき。勢をふる。
あぞ。長足の甲乙はあり。まづ把押へ。痴人の藤原波見ふ。
その發動大なるべ。斯てあるまゝ。わづ。その工を附へ。
檢断と形ひけるふ。に。目す。間ふ。米搗男。狂ひ死ふ。
死。二人の屋根。青も。痴を。浅け。ま。矢。射。ま。や。あり。見。
その痴。果けり。擧。あ。と。を。附。け。り。ふ。あ。妻。二人。狂。
殺。一。方。罪。あり。と。い。ふ。も。元。来。二。人。が。所。あり。ん。ま。の。狂。
死。一。方。と。聞。その。恨。と。報。え。え。り。と。所。あり。ん。他。ふ。

悪心あり。既ふ。史。由。その。狂。死。を。死。に。た。家。振。青。と。も。ふ。
二人の死。已。ま。罪。已。ま。を。責。る。の。さ。は。る。れ。ば。と。く。その。妻。の。
御。の。内。外。あり。り。と。い。ふ。や。曾。子。曰。爾。ふ。や。り。の。ハ。爾。ふ。
と。ろ。と。宜。あり。り。と。い。ふ。二人の死。を。各。神。罰。あり。此。の。味。ふ。
迷。ひ。ん。父。母。の。迷。體。を。喪。ふ。愚。と。や。ん。不。孝。と。や。ん。
愈。よ。と。ま。等。我。味。ふ。と。い。ふ。死。我。の。恨。む。と。い。ふ。ん。

教訓御伽草紙初編上終

教訓御伽草紙初編卷之下



東都

松亭主人輯錄

中ノ羽及勝岡の森。此本今有傳つて人あり元ハ
 林中ハ仕宿。枉吏成勳。一がかの野成得く
 産所ハ引落。史婦ガ中ハ女ハ一人と綴け。森内ニ
 人の番。朝夕農業と做。かの康土の伊尹ガ有華
 の野ハ耕。先舜の王成樂。一説と慕ハ云ハ清

ちりて。天年と還りける。きふ近きうら続きて。季假
 宜く。田畑の登り。珠價に漸く。今春とあり
 けり。所ふ。今年まき不時の冷れ。或は風雨のふふ。諸
 州破ら。播き。青まとなり。一粒も登ら。ぐ
 小粒。園中大小。飢饉。足元の。さうふ。足
 歩。も。山入。葛根。藤。を。播。食。米。と。り
 ぞ。年。元。方。の。式。病。伏。方。人。更。食。米。求。ふ
 あり。重。く。飢。死。者。多。今。春。あ。は。れ。る。ふ

忍び。米。穀。と。り。あ。泰。大。多。き。も。野。人の。限り。う。り。ふ。
 飢。人。は。身。心。を。善。事。と。し。て。も。國。東。富。き。あ。り
 ね。限。り。あ。り。人。の。飢。死。者。多。く。吾。方。の。足。り。と。人。知。る
 せ。患。一。つ。け。る。その。渾。家。者。も。良。人。は。方。ら。ぬ。慈。悲。性。質
 あり。親。友。國。家。者。人。と。多。き。忍。び。ぞ。その。あ。れ。親。友。家。教。と
 所。知。り。我。個。の。飢。を。救。ひ。け。る。今。の。僅。く。も。あ。り。る
 小。粒。二。つ。たり。を。送。り。け。る。是。ぞ。酒。で。飢。死。救。ん。と。の。人。良
 人。今。を。あ。り。見。て。喻。へ。り。ふ。う。そ。方。の。志。疎。勝。り。と。世。ふ

有りては善根と云ふべき。男よと遠く女のおへ着替の小紐
ツニツハ如何も〜貯へお〜。是より其の除所へ
智事も不自由なるといふ。澤家へ関し命さるゝ。
着替の衣類を脱ぎ、服新へ智れものあれ。酒中食物を
あ〜。肌死する人さるゝ。吾儕一人ある衣類を脱ぎん
と。衆〜とゆわむ。如くと云ふ。人々を救ひぬ。あれ衣類
うま信じて〜と。終に其の人の能く〜。皆えけり。
かりぬきバとの家も今い些少の貯へどあり。漸く其日

[illegible]

我親緒共産所成^と出^で所^し呻吟^{うんぎん}人^{ひと}の情^{なさけ}漸^{しだ}と日^ひと
 送り^{おくり}土^{つち}地^ぢを来^きうう^う日^ひ来^きの苦心^{くしん}且^{かつ}の数^{かず}日^{にち}の肌^{うで}を
 疲^{つか}し^く我^{われ}親^{おや}と^の通^と路^ろを^を穢^しせ^う。然^{しか}も^も土^{つち}地^ぢの
 人^{ひと}の情^{なさけ}と^の死^し骸^{がい}を^を収^{おさ}め^る一^{ひと}個^こ
 如何^{いか}なる^{なり}死^しと^のや^やう^う。う^うは^は死^しぬ^ぬる^る死^しあ^ある^る死^しあ^ある^る斯^{かく}呻^{うん}吟^{ぎん}あ
 り^{あり}。と^と泪^{なみだ}あ^ある^る強^{つよ}く^く固^{かた}く^く渾^{こん}家^けに^に哭^{なみだ}う^う。胸^{むね}も^も強^{つよ}
 裂^され^れひ^ひあ^ある^る何^{なん}と^とも^も堪^たえ^えず^ずと^と口^{くち}を^を爪^{つめ}で^でか^かき^きえ^えと^と久^くく^くと^と
 今^{いま}も^もあ^ある^る一^{ひと}ツ^つ堪^たえ^えず^ずと^と物^{もの}も^もあ^ある^る。あ^ある^るう^うう^うう^う女^{にょ}児^ぎの^の外^{そと}あ^ある^る

飯^いり^り未^まり^りな^なる^る母^{はは}親^{おや}の^のあ^ある^る成^{なり}極^{ごく}ぎ^ぎ今^{いま}門^{かど}の^の女^{にょ}児^ぎの^の
 如^{ごと}く^くあ^ある^る。殊^{こと}に^に後^{あと}の^の者^{もの}あ^ある^ると^とい^いふ^ふ年^{とし}々^々と^と四^よ十^じの^の
 あ^ある^る。彼^{かれ}と^とい^いふ^ふ切^きと^とい^いふ^ふ單^{ひとへ}衣^えと^と纏^{まと}ひ^ひう^うの^のと^とい^いふ^ふ。き^き方^{かた}に^に纏^{まと}
 入^いと^と二^{ふた}ツ^つ纏^{まと}わ^わる^る温^{あたた}か^かく^く着^きる^る。な^なを^を追^おい^いて^て暖^{ぬく}か^かる^る。暫^{しば}時^{とき}
 の^の間^{かん}を^を成^{なり}極^{ごく}へ^へ。渠^{かれ}に^に綿^{わた}入^い一^{ひと}ツ^つを^を堪^たえ^えず^ずと^とい^いふ^ふけ^けと^とい^いふ^ふ。
 女^{にょ}児^ぎを^を美^み美^みと^と兼^{かね}引^ひく^く。渠^{かれ}に^に常^{じょう}に^に引^ひ解^{かい}と^とい^いふ^ふ着^きる^る綿^{わた}
 入^いと^と。と^とう^うけ^けの^の堪^たえ^えけ^ける^る。女^{にょ}児^ぎ曰^{いは}上^{うへ}に^にあ^ある^るに^にあ^ある^ると^とい^いふ^ふ。
 上^{うへ}義^ぎあ^ある^るに^にあ^ある^ると^とい^いふ^ふ。その^{その}父^{ちち}方^{かた}人^{ひと}に^に心^{こころ}あ^ある^る。



處女の
仁心
衣を
脱て
乞食
少女小与ふ

その渾家その思ふよりまた斯
のどきのゆあり。緞令一家
治りも一國一郡と治りもその
心操い麻かたし。惣て人の心
えりの心まんばわんく代徳而
后より大守小関え数より
褒美と賜るのまゝにば持人
る田畑の年貢納没と免除

子孫永に傳りたりふるすべし
命ぜらる。今を過つて猶も時
慈悲善事と傳りけるも。近郷
と直に服風と慕ひ。その一郡ふあ
て。不孝の児よりふ歳の親より。
上下親と長幼の席次共いざと
候より。鈴木氏が仁の徳より
のありとて。その教よりとや



廻國の
僧
婦人
赤心の
感
金を
貯
を
与ふ

一 半陸の國と名。その村名及寺號を初とて。
 以基菩薩自作の觀世音成安置せる吳場あり。
 當時因帳ありて。迎々迎在りあふ及む。養病の
 貴賜群集りけり。寺の門前。小僧童終に
 けり。一とく。狗の小屋の等。一き中。年數六十歳
 方六十の。病疲するが。往來の人小物を乞ひ在
 けり。あふあふの六の男。あふ程。病ひゆく。きり
 方容ふみん。ちや枕上人。擡得ず。程。迎き人の情ある

り。種々の食物を。持來りて。與えけり。以の二に
 も食ふ。ゆり。あふんとす。深覺あり。往來の人
 けり。吾病ひきり。今。且。久。迫。り。程。く
 情ある。婦人。も。あふ。乳。乳。與え。生。前。の。受。け。り
 の。あり。と。い。ふ。人。も。あふ。國。々。嗟。失。止。の。乞。食。や。程。が
 ち。き。食。ふ。誰。か。乳。乳。與。え。り。の。あ。ふ。き。あ。す。る
 ぬ。狂。氣。一。方。あ。ふ。ん。あ。ふ。り。て。さ。る。人。も。多。し。さ。る。嗟
 沙。ま。り。と。の。さ。る。さ。る。平。あ。る。婦。人。も。あ。り。と。誰。一。人

といふ。吾等々あはれをいふべき。君もあはれといふ
 あ妻わうち移る家とまふ。只我平々く彼処あふま
 六節の乞食の例のごとく。あまぐれを移るあふま
 往來の人を乳と乞く移る。かくく彼女々あふま
 前あふま。年々くそ方かそ方あふま。吾乳とあふま
 懐とあふま。ほくくそ移るあふま。あふま
 より堂我合を移る。あふま。あふま。あふま
 母。くくあふま。下僕ハ元難波のあふま。若さ

只家も富来え眷属も多し。物々くあふま
 ね。ささす稍小驕の心を生す。茶道我あふま
 お畫の用もあふま。金求め朝夕の衣類を
 元の調度あふま。只管あふま。あふま
 交りく。酒飲。飲所へ入る。傾城さふふ数多乃
 金銀と貴し。親より譲り受る。地屋敷も。大ささ
 失ひする。その冥罰もや妻と先づ。儘きて児は二人
 亡ひられ。そのさだ肇て身の放蕩あふま。あふま

改めて活業と云ふんとし、新小。迎瀬より火火し。家財も大に焼失ひ。活遺し、土庫の一字あり。小も火が入り。悉く灰と多し。今ハ世渡り、便あり。おと今、放蕩中。人徳と毀ひ、天乃山、怒りあり。暗り。石はひ、暇とせ。焼跡の地、面紙、賣持ひ。せと、路用と。回国、今、年、四、年、及、び、迎、當、る、国、へ、来、り、一、分、竟、は、不、治、の、病、ひ、を、發、し、郷、人、の、情、小、う、。斯、小、屋、と、違、り、雨、露、と、凌、ぐ、の、

る。凌ぎ、病、業、病、う、。持、小、不、治、持、た、ま、う、。と、長、物、持、り、て、因、り、け、。奈、何、ゆ、も、そ、の、ま、尋、常、の、を、食、う、る、と、ハ、ダ、う、一、分、果、一、く、昔、の、由、あ、る、人、の、か、零、落、し、の、あ、う、。然、れ、と、不、孝、の、罪、を、あ、り、と、。懺、悔、し、は、ま、に、運、の、罪、科、由、滅、ま、と、う、や、お、の、世、を、か、て、も、あ、と、来、世、く、。中、順、拜、の、功、力、不、あり、て、佛、果、と、得、ん、と、。更、小、難、ひ、ま、う、。に、ご、そ、う、が、望、の、ど、く、。乳、と、勝、を、性、生、せ、よ、と、彼、六、部、が、いの、ま、う、。乳、首、が、持、渡、く、さ、う、て、ま、た、。若、し、き、身、が、や、く、

べけは年々万の貫元や。とり小六郎を莞尔と笑ま。
 そむをる。余せられど。我ちや死期も迫まふあり。おん
 かづき滅ある。人小贈らむ。うせん。さ。愿ふ下僕
 亡後のゆと情を。年頃と。多載て。婦人ガ
 膝の上あけけ。婦人ハ心あうねども。その色をさう
 揚て。老き家路を。男と。良人。その
 具さふ。打うて。閑き。金子。二百。あやけり。
 所の。呆と。親子。目と。目。食を。の。

久知。孫の。の。と。小。活有大金。あり
 度。一。男。あ。と。嫁。と。男。入。り。て。ま
 り。日。来。き。万。が。孝。子。負。実。神。や。佛。の。冥。加。叶。ひ
 あり。あ。ぼ。の。大金。と。得。け。り。の。と。是。方。あり。然。れ。ど
 ち。終。小。あり。ざ。う。ん。ま。づ。彼。所。の。寺。へ。至。り。住。持
 早。譚。合。り。老。由。斯。由。針。の。と。親。子。之。人。立。出。て
 彼。人。と。懐。む。べ。一。ち。彼。六。郎。の。緯。され。て。の。の。ひ
 交。せ。初。め。け。ま。ば。也。さ。ぬ。寺。小。欲。き。ん。住。持。小。如。此。の。

一、紙綴り。佐持を因て眉と聲。かの六終が為体
 きのあうとと思ひし。門前ふゆりあき。が果し
 然る由緒のあり。既ぬ渠死し。ううい。生前の志ふ
 任せ。今もわん身等受納め。骸い此方へ葬る。しといふ
 人い。と揃へ。まづ渠が菩提とて。今もい。等へ納む
 度。未歴樞機もあ人あり。其今も受べき。謂と
 と。因く佐持のあ。又き。うくも。然い。と。渠婦
 人の乳とて。既ぬその志のあ。渠の黄金と。典て。後

哉。やども。辭せし。その志と果せし。あ。の。さ。わ。ば。菩
 提のあ。さ。て。その寺へ納め。渠が本意。背く。の。あ。
 未歴樞機の。と。い。ど。因。推。果。と。説。と。な。を。極。め。く
 謂と。あ。う。さ。う。い。ん。身。等。丈。婦。親。不。仕。え。て。孝。り。あ
 人。食。る。あ。れ。ど。も。家。貧。し。く。養。の。不。任。せ。ぬ。あ。う
 度。その節操と。神佛の。懐。と。あ。ひ。く。授。り。あ。の。不。然。が
 あ。う。う。い。波。郭。巨。が。孝。の。あ。い。と。思。我。埋。め。ん。と。い。く。今。の。身。等
 経。あ。せ。し。と。い。昔。語。り。ふ。髣。髴。方。と。あ。目。に。這。い。ん。身。等

五加二

受納め。渠成先祖と並祀り。追善佛事懃々。渠が
冥魂満足するん。と理非明白に曉され。人々漸々
心成淨の。件の黄金成り収め頓て推して替へ。お六
が亡骸を厚くする寺に葬り。佛の懃懃に倣し畢り。
是より修ふ入を成る。田畠を受度し。且ち新田地を
求め。農作に移成る。將た茶を畑へ。お親の進一
を。修へ病を治す。病を治す。病を治す。病を治す。
お百倍。千今五孫連綿。家富貴え。偏に婦人。

然意ふ。彼里人の。松亭主人。昔。聖武帝の。肌膚白玉の如く
光耀け。光明子と号す。佛の信ト。帝崩時。の。活室で。補理貴。既小九百九十九人で終。千人
目。中。膿爛。病。風。痼疾。念。の。膿と。痼疾。念。の。

大氣悲とくども。是のふ美引わつとく人べ成せし
 け。こと物のごとの大形を数々毎り失と得まん
 とく。彼厲グ膿と吸ひ入る。頂より踵小ゆる。平時活
 室のち光明赫奕とく。以肉佛と通れぬふふ。
 世事元亨釈書及び諸の書小ゆる人の智所ある
 事。記さば是の本文の結説とその旨趣因トくべと
 久どもそのあへ等一々。お今同年の譚多
 花やうつとせん。是のふ美引わつとく人べ成せし
 機者。其のふ美引わつとく人べ成せし
 甚だしく。俗撰附録のことなり

一 山川臺町との所。いときやある居酒舗あり。着き
 夫婦あり。丁推一人とけひ。その流業とあり。老るあは
 養ひける。あひあひ。重き病ひふふ。其のふ美引わつとく人べ成せし
 け。こと物のごとの大形を数々毎り失と得まん
 とく。彼厲グ膿と吸ひ入る。頂より踵小ゆる。平時活
 室のち光明赫奕とく。以肉佛と通れぬふふ。
 世事元亨釈書及び諸の書小ゆる人の智所ある
 事。記さば是の本文の結説とその旨趣因トくべと
 久どもそのあへ等一々。お今同年の譚多
 花やうつとせん。是のふ美引わつとく人べ成せし
 機者。其のふ美引わつとく人べ成せし
 甚だしく。俗撰附録のことなり

度ーと切ふりく小足雅多々。遠うのりの取集め。潤り
爛と做ーくゆーうけはるやうちきて。誰かと握えり
欣やどぬ。ちや子一刻の頃とありけり。當下一個の侍亭と
ぬ。さうくさーの情とあり。其を別の仔細ある。賣溜の沙
箱と借受うとふ亭主。さういふ情とあり。さういふ
戯と余余する。あ。彼沙箱。然るが露余と勢と元
あり。紳ーあーと退くと。ま。一個の侍とあり。武家
對ひ戯とふらふ。ぞ一回借人とあり。さういふ情とあり。さういふ

引きふはせん。沙箱の侍人来り。撥抱きとせん。誰と
する。亭主慌て携りつ。さういふ情とあり。把度さんと
する。威ーの刃と見りと。抜借とあり。家内の奴等
と。切さる。そも持てせん。さういふ情とあり。さういふ
飛退く折と。ツのふ。衆衆飛多々。侍が腕へ。さういふ情とあり。
嗟やと刀と持入り。その腕へ。さういふ情とあり。さういふ
ひひえ。這い何奴ぞと。聲うけとあり。沙りの人。一容ふ
踊りあ。さういふ情とあり。引抜刀。さういふ情とあり。さういふ